

## 先輩医師からのメッセージ

### 後期研修を大学で！

平成21年3月 弘前大学卒

内分泌内科／糖尿病代謝内科／感染症科 医員 杉山 綾



甲状腺超音波

私は卒業後、初期研修は大学病院のたすきがけのプログラムを選択し、大学病院と市中病院の両方を経験しました。その後は「研究の側面を知っていた方が臨床の面でも理解が深まる」という話を聞き、大学院へ入学しました。現在は院と並行して大学病院で病棟業務を行っています。

大学病院は専門医や指導医の先生が多く、様々な観点からの意見を聞けることが大きなメリットだと思います。多彩な症例が集まり、困難な症例でもディスカッションすることで新たな糸口を見つけ出ししていくことができます。診断基準や治療法は刻々と変わっていくものですが、「既存のものに当てはめる」だけでなく、「新しい基準を確立していこう」とする雰囲気は大学病院にしか



い魅力ではないかと感じています。

初期研修が終わった後も、医師としての人生は数十年間あります。その中で大学病院ほど多彩な側面をもち、勉強になる病院はないと思います。広い視野を持つために、ぜひ後期研修は大学病院を選んでみませんか。

臨床内分泌代謝 Update

## 各々のニーズに合った充実した研修

平成20年3月 弘前大学卒  
神経科精神科 医員 吉澤 佳織



私は、平成20年弘前大学卒業後、大学病院で初期臨床研修を行いました。研修中妊娠、出産を経て昨年4月より同院神経精神科の医員として勤務しています。又大学院生でもあります。

大学病院で後期研修を行う最大のメリットはなんだろうか考えると、最初に思いつくのはスタッフが充実しているということです。そのことで、症例検討や教育的指導が充実し、最新の治療、考え方のもと、じっくりと学ぶことができます。同時に、弘前大学神経精神科はグループ制であり、児童思春期、薬理、リエゾン、てんかんなど幅広く学ぶことができます。そして、個人のニーズに合わせた、いろいろな研修ができます。

例えば、研究活動重視の先生は、臨床、当直もやりながら、論文を書き、学会や研究会に年6回くらいのペースで参加しています。海外の学会にも参加できます。育児重視の私はマイペースで臨床をやらせていただいています。平日は9時から17時勤務で、当直や土日勤務は免除されています。もちろん、スタッフが多いので、子供の体調が悪い時などは臨機応変に対応してもらっています。以上の様に臨床、子育てと充実した後期研修生活を送っています。このような研修を通じて、私は精神科という分野に、日常生活すべてにおいて役に立つ、そして自分を高めていける魅力を感じています。

毎週月曜18時よりお弁当を食べながら、後期研修医向けのランチョンセミナーが行われています。興味を持たれた方はいつでもいらしてください。お待ちしております。



電気痙攣療法施行中です。



子連れで勉強会に参加しています。

## 後期研修先を選ばれる皆様へ

平成20年3月 弘前大学卒業  
放射線科 医員 廣瀬 勝己



私は平成21年に弘前大学を卒業しました。大学入学当初から悪性腫瘍に特化した臨床および研究を行いたいという意志は変わらず、卒業前には既に放射線治療の道を選択し、大学病院で2年間初期研修を行いました。

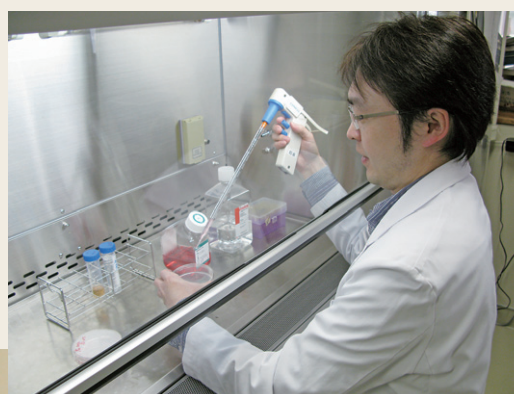
大学での研修は、以下に示す多くのメリットがあると思います。1つめに、症例が充実していることです。放射線科医は“doctor's doctor”といわれ、全ての診療科に関わり診療を行います。この広い領域をカバーするには、いわゆるCommon diseaseだけでなく、普段あまり見かけない疾患も経験しておく必要があります。ありがたいことに大学病院には多岐にわたる症例があり、勉強するにはもってこいの環境です。2つめに、多角的に病態を検討する姿勢を養えることです。ほぼ毎日行われる他科との合同カンファランスでは、他科医師の病態への切り口が思いも寄らないところにあることに驚かされ、それが少しずつ自分の身になっていくのを実感します。そして3つめに、専門的医療を学ぶ十分な設備が整っていることです。放射線科医の場合、診断・治療どちらの分野においても多種多様なモダリティがなければ知識や技術を身につけることができません。当院放射線科の診断部門には多チャンネルCT、3テスラMRI、PET-CTなどが揃い、治療部門には高精度照射や小線源治療などあらゆることができる充実した環境が整っています。

昨年度は大学や教室からのサポートで数多くの学会や研究会へ参加させていただきました。その傍ら、大学院生として腫瘍細胞を用いた基礎研究を行ってきました。実験は一朝一夕にはいきませんが、結果が少しずつ積み重なるたびに密かに興奮と喜びを味わっています。

上記のように、大学病院の研修は十分過ぎるほど充実しています。時には忙しさから辛いと感じることもありますが、諸先輩先生方からの励ましや、協力し合い愚痴をこぼせる同期の後期研修医の存在が何よりも支えとなっています。皆様も是非、大学病院で充実した研修を行ってみてはいかがでしょうか。



診療風景



研究風景



カンファランス風景

## 「後期研修は大学病院で！」

平成21年3月 弘前大学卒  
脳神経外科 助手 片山 耕輔



私は平成21年に弘前大学を卒業後、青森市民病院で初期臨床研修を行いました。H23年4月から当院の脳神経外科で勤務しています。ちなみに大学院生でもあります。

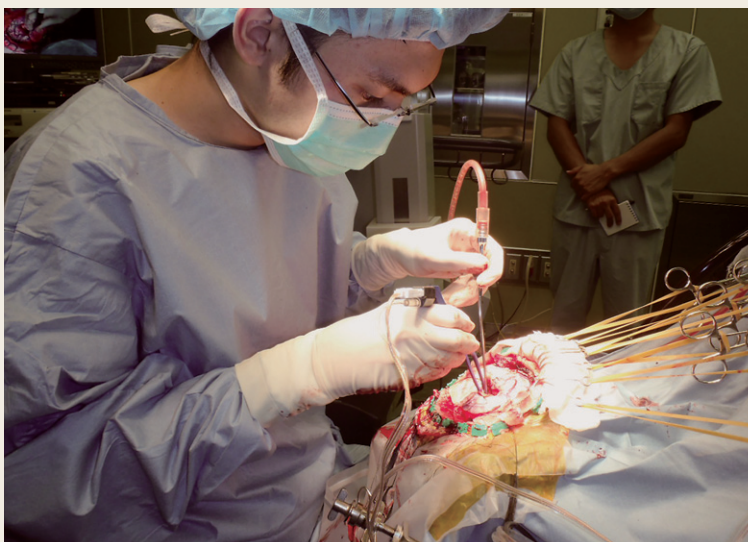
初期研修は、素晴らしい上司の先生や多くの症例にも恵まれ、大変有意義な勉強ができました。ただ、私は脳神経外科の中でもとくに脳腫瘍に興味がありましたが、悪性の脳腫瘍の治療は県内では大学病院でしかできません。症例数が多くはない疾患でも、数多く・高い専門性を持って経験できる点が大学病院での研修の大きなメリットです。

また大学病院は、多くの専門医・指導医がいます。すべてのジャンルにおいてプロフェッショナルが揃っているのです。そのため各分野で、多面的で深いアドバイス・指導を得ることができます。学会発表や研究活動は、正直はじめは億劫でしたが、準備段階で読む多くの論文や上司とのディスカッションで得られた知識は、実際の診療を行う上での大きな礎となっています。教育のノウハウを知る各分野のスペシャリストが揃った大学病院だからこそ濃密な勉強ができます。

大学での勤務はまだ日が浅い私のコメントですが、大学病院での後期研修を考えている方々の参考になれば幸いです。



研究会発表



手術風景